玖波







観客沸かす伝統の奴行列

10/11 SUN

玖波地区

秋晴れの中、大竹一番太鼓の迫力ある演奏で幕を開けた『玖波祭』。勇壮に舞う奴や掛け声をあげて豪快に練り歩く神輿が沿道の観客を楽しませました。

奴として祭に参加した中村啄也さんは「年に一度、仲の良い友達と集まって参加できるのが楽しい」と語り、晴れやかな表情を浮かべていました。





小方









静寂にある美しさ

10/4 SUN

小方地区

時折小雨が降った『小方祭』。掛け声なく進む、小方しのびの奴が作りだす静寂の空間と、大きな掛け声で盛り上げて進む神輿が見事に調和します。女性が担ぐ『べっぴん神輿』が今年から加わり、「べっぴん。べっぴん」と新鮮な掛け声で、祭をさらに盛り上げ、雨を吹き飛ばすほどの熱気に包まれました。リーダーを務めた福成莉沙(ふくなりりさ)さんは「みんなのおかげで無事に終われた。何年も何十年も受け継いでいきたい」と意気込みました。





竹











イベントなどで撮影した写真は、「広報おおたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。

大







渾身の山車が勢ぞろい

10/18 SUN

大竹地区

カメラスケッチ PART1

心配された天候もなんとか持ちこたえ、大竹の三大秋祭りを締めくくる『大竹祭』が開催されました。

例年多くの観客でにぎわう権現橋や大和橋付近では、厄年の男性が担ぐ神輿(みこし)や女性のみの『華みこし』が勢いよく回ったり、神輿を高く持ち上げたりする姿に、歓声と拍手が送られていました。

タコの口から自動でシャボン玉が出る仕掛けを乗せた山車(だし)で観客の注目を集めていた元町二丁目自治会の新畑孝信さんは「7月末から毎日のように集まって完成させた。吸盤は紙コップの底やペットボトルのフタを使った」と語り、無事に祭の日を迎えられてホッとしている様子でした。